

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	33	大学等名	関西国際大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・インターンシップを柱とした産業界から信頼されるアクティブ・ラーニング (AL) の推進、学修成果の可視化を目指したプログラムにより、大学の教育改革が概ね順調に進んでいる。特に、「課題解決型インターンシップ・プログラム」の開発は、その実施成果が期待できる取組である。また、「インターンシップ・ルーブリック」、「キャリアチューター」としてのピアサポートの導入、「セルフ・アセスメント・テスト」の導入も着目できる取組と評価できる。
- ・AP 事業プロジェクトのメンバーを中心とし、インターンシップ協力企業・協力団体からなる協力者会議や外部評価委員会と連携した実施体制が整備されている。また、外部評価体制も適切であり、評価できる。
- ・人間科学部を対象とした取組が全学部展開する方針となっており、本事業の学内における波及は着実に進んでおり、評価できる。
- ・選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組については、出口からはじまる教育改革アプローチの手法が全学的な教育改革のエンジンとして展開しはじめている。また、全学必修科目「評価と実践 I」の導入は、学生の自己評価能力向上に資する取組と評価できる。

<改善を要する点>

- ・授業外学修時間など、目標に達していない項目については一層適切な対応が求められる。
- ・インターンシップに参加していない学生への対応はどのようになっているのか、説明が必要である。
- ・本事業に係る PDCA サイクルについては、データに基づき、より一層明確化する必要がある。
- ・申請時の人間科学部の「体験型学修推進委員会」の運営について説明が必要である。
- ・平成 30 年度以降に予定されている教育学部、保健医療学部における取組については、より一層具体的な取組内容の策定が必要である。
- ・インターンシップに係る高次の AL の推進とともに、一般的な AL の推進、展開など、大学全体の教育改革の方向性を明確化することが必要である。